

英国人ライターが案内する、TOKYO

外国人は、日本の美をどのように捉えているのか？ 英国人トラベルライターが6つのテーマで選んだ、東京の美しいスポットを紹介する。

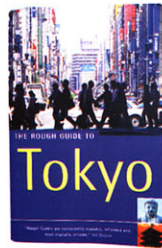


サイモン・リッチモンド

Simon Richmond

トラベルライター

●1964年英国生まれ。91年に初来日。「The Nikkei Weekly」の記者などを務めた後、94年からインド、東南アジア、南アフリカ、ロシアなど世界各国を旅し、ガイドブックや旅の専門誌を中心に執筆。「ラフ・ガイド」(www.roughguides.com)の日本編や東京編も手がけている。2~3年に一度は日本に長期滞在。現在はポستن在住。



4階にあるシャウジー付き浴場は風流を趣、各階にシャウルームもあるが、旅の疲れを取るには風呂が一番。



各階の隣り合わせの部屋とつながる空間は、洗練されたモダンな館内。館内用の草履は、外国人ゲストの要により販売もよくなりました。



1階にある食堂。トースト、卵料理、果物の朝食は¥300〜。コーヒーやお茶は無料。ゲストの情報交換の場でもあり各国語が飛び交う。



骨董好きの女性のたつたの希望で、「有明行燈」を模したデザインが誕生。客室の窓のライトにより柔らかく発光する窓の外観は、ますます行燈だ。

行燈

Andon

www.andon.co.jp

ここ数年、三ノ輪〜北千住一帯のエコノミーホテルは、外国人バックパッカーのメッカ。同じエリアにある旅館「行燈」も、95%以上が外国人客だ。英語版のサイトも充実しており、海外のガイドブックや雑誌でも頻繁に取り上げられ、建築やクリエイティブ関係のゲストが多い。リピーターも多く毎年訪れるゲストも。その名のとおり行燈のようなデザインは、建築家・入江正之による。

北千住 三ノ輪 有明

●東京都台東区
日本堤2-34-10
☎03-3873-8611
客室：24室
料金：1部屋あたり
¥8,190(1~2人用)
各階にシャワーと
トイレあり



階段などには女性のコレクションシヨンである江戸・昭和初期の骨董が飾られ、四季折々の演出がなされている。



ミミマルを壁には、虫笛を数多く飾りつけ、さらに、壁にTV、DVDプレイヤー付き、インターネット接続対応。

「ヒミコ」に乗って、隅田川〜東京湾クルーズ

HANGING OUT



トーキョー・クルーズ ヒミコ

Tokyo Cruise Himiko
www.suijibus.co.jp

●☎0120-977311(受付9時30分~17時30分)
※団体のみ予約可 運賃：浅草〜お台場(¥1,520)、お台場〜豊洲(¥760)、豊洲〜浅草(¥1,060)
浅草〜お台場間を1日3往復半(最終便は豊洲止まり)

「たとえば食文化。世界中で鮎が食べられるようになった現在でも、本物の鮎はやっぱり東京に限る」
そんなサイモンが東京でいちばん好きな日本料理店は、本駒込にある豆腐屋「五右衛門」だ。「豆腐でこれだけ多様な味が生まれるのは驚き。料理が季節ごとに変わるのも好きだし、建物が庭のしっとりとした雰囲気もいい」
一方、物見遊山なる谷中東横を散策。下町ならではの人情に触れながら、古民家や寺のある街並みを見て歩く。江戸時代の蔵をギャラリーにした「小倉屋」は、建物だけでなく館内の展示もユニークだ。
ちよつとくつろぎたいときは、池袋にある「カフェポーズ」へ。展覧会やイベントをやっている、新しい友達

「たまたまこの目まぐるしい変化は、ごく表面的なレベルのこととサイモンは見ている。東京に住んだ経験もあり、日本文化を敬愛する旅の達人によれば、東京には歴史に根ざした伝統が、たまたま残っているという」
散歩するなら谷中横断、必ず立ち寄る日本民藝館。

トラベルライターとして世界各国を旅しているサイモン・リッチモンドは、約2年ぶりに東京に来た。
滞在先は2003年のオーストラリア当初から常宿にしている旅館「行燈」。和とモダンが融合したデザインも好きだが、宿泊客のほとんどが外国人で、スタッフとの会話や館内の標示など、すべて英語で事足りるのが気楽でいい。女将に「おかえり」と迎えられたサイモンは、和の情緒あふれる小上がりであぐらをかき、日本茶を伸ばす。
「第2のわが家。は何も変わっていない。しかし一歩、外に出れば話は別だ。東京の変化のスピードは世界一。来るたびに変わっているから、情報をゼロから入れ直さなきゃいけない」
今回の滞在取材が楽しみなのは、秋葉原のメイド喫茶。「東京には人工的な面白さがある」とサイモン。同じ理由で隅田川〜東京湾を走る水上バス「ヒミコ」もお気に入り。「ヒミコから眺める東京は、アニメの世界のよう」
散歩するなら谷中横断、必ず立ち寄る日本民藝館。